

平成30年度学校経営方針

平成30年4月
桐生市立梅田南小学校

学校課題

○生きる力（確かな学力の確実な定着、豊かな心と健康な体の育成）をはぐくむ教育の推進

↓
「自ら学ぶ意欲をもち、確かな学力を身に付け、自己肯定感と社会性の高い子どもたち」をはぐくむ。
（学びに向かう力）

- ・小規模校のよさを生かした6年間を見通した指導法・指導体制の確立。きめ細かな指導の充実。
- ・担任や担当が複数の目がかかわる協働体制・得意分野を生かしあう実効性のある教科担当制の確立
- ・外国語活動・外国語科・特別な教科道徳・プログラミング教育の実践と充実
- ・自己肯定感を高め社会性を育てる学級・学校経営の充実。幼中・縦割・地域とのかかわりを大切に。
- ・一人一人の実態をつかんだ健康増進・体力向上。教育相談体制・サポート体制・特支教育の充実。

1 学校の教育目標

「子どもたちの健やかな成長」をめざし「チーム梅南小」で信頼される学校づくりを行う。

基本目標

豊かな情操と自ら学ぶ意欲をもち、心身ともに健康で社会の変化に主体的に対応できる子供を育てる。

具体目標

目指す児童像

キャッチフレーズ
「よいこのかがく」

- なかよく思いやりのある子・・・(低) 誰とでも仲良くする子
(やさしく) **か** 感謝 (中) 相手の気持ちがわかる子
(高) 相手の立場を尊重できる子
- 明るくたくましい子・・・ (低) 最後までがんばる子
(たくましく) **が** がまん (中) 困難に負けない子
(高) 目標に向かって努力する子
- すすんで学び高め合う子・・・ (低) 自分から学ぼうとする子
(かしこく) **く** くふう (中) 自分の考えを深める子
(高) 自分の考えを深めともに高める子

よいことどんどん
いのちをたいせつに
こころをたいせつに
のびゆくうめなん小
かんしゃする心
がまんする力
くふうする力
で夢ふくらむ 141名

学校像

夢ふくらむ梅南小「やさしさいっぱい、やる気いっぱい、元気いっぱい」

- 楽しい学校 ・児童主体の授業を展開し成長を実感できる学校 よさをみつけ伝え合う学校
・基本的生活習慣が身に付いている学校 ・元気な挨拶・返事・元気な歌声
- 安全な学校 ・生命尊重の学校 ・交通安全指導や不審者対策・アレルギー等対応の徹底した学校
・校舎内外の点検管理や危機管理・安全対策・服務規律の徹底している学校
- 感謝の学校 ・校舎内外の美化（清掃、校舎内外の計画的掲示、かかとそろえ、花壇整備）
・正しい言葉遣い、笑顔のかかわり、和顔愛語 梅南小しぐさ
- 高め合う学校 ・よさを認め合い課題解決にむけ積極的に話し合う学校 図書館を活用する学校
・ICT・インターネット等情報機器を利用する学校
- 開かれた学校 ・学校の情報を発信する学校 ・地域・異校種と連携・交流する学校
・地域とのかかわりを大切にし、地域の豊かな自然・優れた文化・人に学ぶ学校

教職員像

○報告・連絡・相談・記録 ○計画的な準備・調整・提案

- 子ども・保護者・地域・同僚との出会いを大切にし、得意分野を生かし合い「和顔愛語」で良好な人間関係づくりに努め協働する教職員
 - キャリア段階に合わせ研修・業務に励み、「OJT」を推進し指導力の向上に努め服務規律を守る教職員
 - やりがいと誇りをもち謙虚に「チーム梅南小」の和と信頼を高めつなぐ教職員
 - 子どもとともに学び、行動する教職員（教職員自ら範を示す）
 - 温かさとしなやかさを兼ね備え、児童のよさを引き出し、個と集団を伸ばせる教職員
 - 子どもの成長を子どもたち自身に実感させ、子どもの姿で保護者の安心と信頼を育める教職員
- ◇任された分掌に誇りと責任をもち、教育目標具現化にむけ、アイデアを生かし相談・調整・提案
※職員会議等の提案書類は1週間前に教頭に提出を。

△ ～◇◇については、どうしたらよいですか。

◎ ～◇◇については、担当として、～のようにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

分掌・担当は、職員会議の効率化や提案の充実を図るため、提案書類は、予め、引き継ぎ資料等関係書類や、反省、職員の情報をもとにに基づき、担当自らが理解を深めて提案する。事前に改善や関係職員と調整を図り提案することを心がけよう。

2 学校経営方針

桐生市立梅田南小学校

学習指導要領、県教委、桐生市の教育大綱・教育行政方針等を踏まえ「桐生を好きな子供の育成と生涯学習の推進にむけた新しい時代に即した特色ある学校経営を推進する。

- (1) 教育目標の具現化を図り、「チーム梅南小」で「信頼される学校」を目指す。
- (2) 地域や小規模校のよさや特性を生かした特色ある教育課程「地域体験学習」等の編成・実施・評価に努める。梅田の豊かな自然、優れた文化や人を生かした地域体験学習を推進し「桐生を好きな子」「梅田を生きる子」を育む。小規模ならではの異年齢交流（縦割り活動）を積極的に生かす。
- (3) 学習指導や生徒指導、特別支援教育、危機管理等における課題を共有し、協働して組織的に取り組み充実を図る。小規模校ならではの梅南小協働体制を推進する。
- (4) 知識・技能を活用する力を伸ばすため、伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力を明確にした「考え、表現させる授業」の充実を図る。単元全体を構想し、授業の目標を提示し、「学びに向かう力」を高めながら、児童主体で、目標に対応した振り返りのあるわかる授業・実効性のあるきめ細かな指導を推進する。
- (5) 効果的・積極的 I C T機器の利用、プログラミングの体験による学習活動を進める。
- (6) 学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、学級経営・集団活動の充実を図る。道徳教育・キャリア教育を推進し、個と集団をとともに育む。
- (7) 生活・学習指導にあたっては、個別の支援・手立てをより充実させる。
- (8) 心身ともに健やかな成長をめざし健康増進・体力向上をめざす。
- (9) 教育相談・サポート体制を充実し、いじめ・不登校の未然防止に努めるとともに、いじめアンケート等によるいじめの早期発見・対応に努める。S カウンセラー・教育相談員・養護教諭・関係機関との連携を深める。
- (10) 保護者との連携を強化し、全校で、基本的な生活習慣の定着、学習習慣の確立に積極的に取り組む。
- (11) 新学習指導要領・県学校教育の指針・桐生市教育大綱・教育行政方針に基づく学校経営方針の策定・周知とともに、学校評価や学校評議員制度、人事評価制度の活用を図り、PDCA サイクルで学校経営の改善・充実に努める。
- (12) 公民館や PTA、学校支援ボランティア・異校種等との連携を密にし、家庭・地域に開かれた学校づくりに努める。
- (13) 児童の安心安全・服務規律の徹底とワークライフバランスにむけた効率的な校務や会議の推進に努める。

3 学校経営方針における本年度の努力点

桐生市立梅田南小学校

- ①学習指導要領、県・市教育行政方針・市教育大綱を受け・学校経営方針・グランドデザイン・学校だより・次年度プロジェクト等による校長ビジョンの明確化を図る。
- ②地域体験学習において、その価値と意味を明確にし、体験から学び成長へつなげるまとめをより工夫する。特にお世話くださる人への感謝とキャリアを伝えてくださる人への尊敬する気持ちを育み自己の成長につなげる。
- ③職員会議等で共通理解をし、OJTを推進し、一枚岩となり「チーム梅南小」で協働し児童の指導にあたる。「梅南スタイル」(小規模校・現本校ならではの協働体制)として、担任・担当等で協働体制で取り組み、得意分野を生かし合う教科担当制・3～6年の算数TT体制、1・2年・特支・協力学級としての協働体制を推進する。
- ④学習に対する興味や必然性(学びに向かう力)を高めながら、目標(めあて・ねらい)を提示し、何をどのように学習するのか見通しをもたせる。本時で学習したことを目標(めあて・ねらい)に沿って振り返らせることで何を学んだのか自覚させるとともに、学習したことの意義や価値を実感できるようにし、次の学習につなげる。必然性のある教科担当制と教育活動支援員によるきめ細かな指導を行う。
- ⑤週に一度は、教室でICT機器を活用した授業を行うように努める。プログラミングを体験しながらコンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を育むことの意義を大切にしながら取り組む。情報モラル教育を徹底する。
- ⑥学習・生活面の成長にかかせない学級経営・教科等経営の充実を全職員で図る。学校経営方針を受け、担任・担当は各経営方針と具体策を明確にする。特に、児童との信頼関係を築く部分、児童相互のよりよい人間関係作りの部分を大切に基盤を作る。その上で人との出会いやかかわりの場面で、交流活動を通しての学びを充実させるとともに、自己肯定感や社会性・夢を育むキャリア教育、年間35回(1年34回)の特別な教科道徳の充実を図る。個と集団の成長をつねに意識した声かけにより、よさや成長を実感させる。
- ⑦個の理解の度合いに応じて支援を行い、努力を認める肯定的な声かけをし、わかるまで丁寧に教え、十分理解できた児童へは、次の課題を与え発展的な学習を促す。
- ⑧計画的な体力向上プランを推進し、体育はしっかり運動量を確保する。朝の運動・保健指導・保健学習の充実を図る。運動会の隊形移動やラジオ体操等は1学期から準備。
- ⑨クラスの全ての児童が、クラスの中で活躍できる自己有用感・所属感もてる学級経営・教科等指導の充実を図る。児童間のいさかいは、解決し下校させる。泣いて帰さない。厳しい指導もほめる指導も信頼関係が基盤。厳しい指導はフォローしてから下校させる。個をほめる指導は、集団もセットでほめる配慮をする。保護者連絡を丁寧に行う。
- ⑩保護者の協力を得ながら、学年の発達段階に応じた時間「家庭学習」を全児童校が毎日実施し、学習習慣を身につける。全校で「朝学習」「三行日記」に取り組み力を伸ばす。「ステップアップタイム」を導入し、学習内容の定着を図りながら活用する力を伸ばす。
- ⑪PDCAサイクルで学校評価制度を活用し、次年度プロジェクトに取り組む中で、本校の課題を解決していく。新学習指導要領実施にむけ計画した「新校時表による教育活動」及び、完全実施の「特別な教科道徳」・「外国語」・「特別活動」と移行措置の充実を図る。
- ⑫幼・中・学校支援ボランティアとの連携を深める。幼との連携会議は5月・3月、中との連携会議は8月・3月に行い、かかわりを大切にする。学校支援ボランティアとの会議や打合せの機会を大切に生かし、連携を深め、成果を伝えていく。
- ⑬不審者等安全対策・安全教育強化。個人情報や持ち物・鍵管理徹底。朝・午後のC4th確認。出退勤記録をつけワークライフバランスを意識し業務の効率化を図る。会議の精選(運営委員会は年3回)日直見回りなしとし、OJT・教材研究・事務時間とする。